



サポーターさんのお話1

ファミリーサポート

Q&A 「美容室へ行く時でも利用できるって、ホント!!」

ええ ホントよ。私は週1回、習い事する時に利用してるわ、病院への診察やお見舞いに行く時なんか、小さな子供を連れて行くのは嫌じゃない? そんな時も利用すると安心よ。お母さんが手助けが欲しいと思ったり、少しリフレッシュしてまた子育てに頑張ろうと思う事だったら 遠慮なく利用できる。ただ、利用するには、前もって登録が必要だから、まず☎してみてください。

Q&A どうして育児サポーターになったの?

・私の子供は双子だったので、ここには双子の会等 随分お世話になりました。二人の子が、今年幼稚園に行く事になりましたので、その空いた時間を利用して、今度は私がお役に立てればと思いました。保育サポーターDさん(夏休みには、利用者としての元気な息子さん達と姿を見せてくれました)

・私は10年間の保育士としての経験と20年間の子育ての経験をここで生かせたらいいなと思って。昔、育児に悩んでいた時 新聞で「親になるのに経験者はいない。」という記事を読み、安心しました。それを書いたのは幼児教育で有名な大学教授だったんです。

そうよね。赤ちゃんが生まれるまではみんな同じだったんだ!! と思ったら・・・気が軽くなって。私の子育ての失敗談を ここに来るお母さんたちに、役に立ててもらえたら嬉しいです。保育サポーターさん



サポーターさんのお話2

ファミサポ援助会員講習会をうけて

第8回 ファミリーサポーター援助会員講習会がありました。

・「私三人の子供の父親ですが、私に出来ることがあればと申し込みました。男でもいいですかねえ」「男性!大歓迎です。」拍手が起こる。「私はディケアに勤めてるんですが、自分に出来ることがあればと・・・」「私は仕事が忙しいので、今年と来年半分づつ受講して援助会員の資格を取りたいと思います。」30代~50代の方まで色々な方々が、子供とのかかわり、支援をしたいと応募して来られていた。幾つになっても出来ることはある。色々な人がそう思って来てらっしゃるんだなあと思うとなんだか嬉しくなってきた。

講習が始ると「幼児期の発達の特性、子供との接し方」「抱き癖はつかない。泣いたら抱く」等、今子育て中の人やこれから出産される方等にも聞かせたい内容が多かった。

特に、目からうろこだったのは、子供が異物を飲み込んだ時の対処方法だ!「指を入れて吐かせる」「背中を強くたたく」等何度も文章では、覚えていた事だが・・・実際目で見るとこんなに違うとは、なんと同時に行うものだった!!



病後児保育

病後児保育ってご存知ですか？

親が子供を育てていて、何よりつらいのは、子供が病気になった時ですよね。3日目でだいぶ良くなってきたけど、後2日仕事を休めないとか。急に保護者に止むを得ない事情が出来子供が看れない、とか。

そんな時、病気回復期の子供をお預かりし、看護師や保育士が保護者に代わって1対1でお世話するのが、病後児保育です。一日なんと千円！！このホームページに詳しく載っていますが、気をつけないといけない事が2つあります。

第1…事前に登録が必要です。病院受診後、当センターへ連絡予約をしてからの申込になります。

第2…スクールゾーンとなっているので警察に届出を貰わなくてははいけません。

朝7時30分から当センター付近の通学路はスクールゾーンとなりますのでご理解下さい。



母のつぶやき

ちびっこ怪獣

「あ～ うちには怪獣が二匹いるみたぁーい」
・・・子育て真っ最中の母のつぶやき

そのお母さんの声を打ち消すように元気な笑い声で遊びまわる子供達。

でも、年子ちゃんって、とっても。仲がいいですよ。小さい頃から二人でじゃれ合ったり、頼ったりあったり。

結構お母さんの手を離れて遊んでいるんですよ。その時間何かを片付けようとせず、ゆっくり眺めてみては如何ですか？ 自分の休み時間と思って休んで下さい。

入学すると子どもは2、3年で親離れをしていきます。一番楽しかったのはあの頃だったなあと今を振り返るときがきますよ。

昔の人はは言いました。子育ては、「のんき」「元気」「根



もうすぐお兄ちゃんをつぶやき

赤ちゃんが生まれる

「ママ赤ちゃんができたの、このお腹の中に」と言うと「わーい やったやった。私赤ちゃん欲しかったの。」と6歳のAちゃん大喜び、ところが一つ下の弟S君は おどろいたのか、とまどったのか後ずざりをして

「ぼく 赤ちゃん いらん!!」とそう言うと部屋を飛び出して行きました。

しばらくしてママが夕飯の支度をしていると、S君ママのスカートをちょんちょん引っ張って「俺、可愛い女の子ならいいよ。」

次の日はママの検査入院の日です。S君は朝一番に起きると、まだ寝ているママのそばに行きその首にまきつきました。「ママあ。 ぼく、さみしい・・・」

私達が母になったように、ちょっとずつ、子供達もお兄ちゃんになるための準備してるのかもしれないね。